

# スペイン語落語 笑い一色

関西を中心に活躍中の落語家林家染太さん(37)＝松山市出身＝がこのほど、スペイン・バレンシアで開かれたイベント「第37回ジャパンウィーク」(国際親善協会など主催)に参加し、スペイン語で落語を披露した。染太さんは「ラテン系の皆さんだけにノリがよく、大いに笑ってもらった」と手応えを感じた様子だ。



松山出身・林家染太さん 現地公演

## 「ノリよく」手応え

ジャパンウィークは日本の伝統や文化、芸能などを毎年、海外で紹介するイベントで、今回はスペインが会場。初参加の染太さんはメーラの舞台公演と地元高校での交流公演に出演した。アメリカ、イギリスなどで200回以上の海外公演を経験している染太さんも、英語圏以外の落語は初挑戦。ほとんど知らなかったスペイン語を公演2カ月前から猛特訓して現地入りした。

地元特産のオレンジを意識し、両公演とも黄色の着物などでステージに上がった染太さん。本番前に日本アニメの人気の高さを知って「ノー・ソイ・ヒカチュウ(私はヒカチュウじゃないよ)」と即興で自己紹介し、これが大ウケ。得意演目「ほろじの茶」では、途中に挟む三味線で名曲「ボラレ」を盛り込むなど現地向けにアレンジし、自身でも驚くほど盛り上がった。予想外の収穫もあった。帰国前後に見た本場のフラメンコ。客がまばらな会場で懸命に踊るダンサーたちを目の当たりにして「同じエンターテイナーとして、極めてやりづらい雰囲気だったことは分かるが、彼らのプロ意識はすごかった」と大感激。あらためて初心を思い起こしたという。今回公演では字幕掲示を避け、自分の言葉で伝えることにこだわり「下手でも一生懸命やれば伝わる」といっ

とが経験できた」と話す。スペイン語は「まだまだ、たどたどしい」というが「響きが面白く完全にハマった」と語り、スペイン語圏のもっと多くの国の人たちを笑わせ、「日本」を発信したいと勉強を続ける。今年もメキシコ遠征も検討中だ。(高橋士朗)

スペイン・バレンシアの高校で落語を披露し、生徒らに歓迎される染太さん